

## 1980年代の欧州における軍備管理・軍縮に関する史料調査

法学研究科 博士後期課程 3年

高坂 博史

フランス、イギリス

2019年9月2日～2019年9月24日

### 計画の概要

報告者は、冷戦からポスト冷戦への移行期である1980年代の欧州における安全保障について国際政治学の観点から研究に取り組んでいる。その過程で、この時期に全欧安全保障協力会議（CSCE）および同会議の下部機関である欧州軍縮会議（CDE）にて実施された信頼醸成の強化を主目的とする軍備管理・軍縮の交渉プロセスが、ポスト冷戦期の欧州の安全保障秩序に与えたインパクトを認識するに至った。

CSCE および CDE における交渉プロセスでは、超大国の米国・ソ連よりも西欧諸国（特に西欧の大国）がイニシアチブを発揮してきたことから、西欧諸国が西側同盟内の交渉および東西ブロック間の交渉で果たした役割を詳細に検討することは重要である。しかしながら、西欧諸国の役割にフォーカスをあてた体系的かつ実証的な先行研究は未だ存在しないことから、報告者は実証研究を行うべく、文書公開ルールに基づき外交文書が一般公開された現下のタイミングで欧州における調査・史料収集を計画した。そして、欧州の訪問先として、CDE 構想を最初に提唱して主導的役割を担ったフランス、および欧州情勢に関する史料を多数所蔵し公開しているイギリスを選定した。

### 成果

#### ●フランスでの史料調査

今回の史料調査ではじめに訪問したのがパリ郊外のラ・クルヌーヴに所在するフランス外交史料館（Centre des Archives diplomatiques de La Courneuve）であった。同史料館はフランス外務省の管理下に置かれており、同省の公文書が保管・公開されていることからフランス外交を研究する上では欠かせない施設である。ここでの調査では、1978年～84年にかけてのCSCE・CDE交渉をめぐる公文書を閲覧し、その内容を持参のデジタルカメラで撮影した。ここで収集した史料は、CSCE・CDE交渉におけるフランスを中心とした西欧諸国の役割の解明に寄与するものと思われる。なお、同史料館所蔵の公文書ファイルの特徴として、単一のファイル内に異なるテーマの史料が混在しており、またそれらの綴じ方も必ずしも時系列順になっていないため、使いこなすにはやや時間を要した。

フランスでの史料調査を通して報告者が気付いた点としては、史料館のアルシヴィスト

(archiviste) と事前によく相談することの重要性である。報告者は渡航前にフランス外交史料館およびフランス国立文書館（外務省・国防省以外の官庁の公文書や大統領の個人文書等を保管・公開している。今回は所蔵史料の関係で訪問を見送った。）とコンタクトを取ったが、いずれもケースでも高度の専門性と知識を有したアルシヴィストの方に対応していただき、探している史料の所在、関連する史料ファイルの情報、情報開示請求の方法等を詳細に教示していただいた。特にフランス外交史料館の場合は、所蔵する史料の目録をオンラインでは公開していないため（2019年9月現在）、所蔵する史料の内容を把握するには事前のコンタクトは不可欠である。



フランス外交史料館・外観



フランス外交史料館・閲覧室

### ●イギリスでの史料調査

フランスでの約1週間の史料調査を終えて、次に訪問したのはイギリス国立公文書館（The National Archives）である。同文書館ではイギリスの首相官邸、内閣府やイギリス外務省をはじめとする各官庁の公文書が保管・公開されており、その史料の網羅性と公開度の高さからイギリス外交の研究のみならず国際政治の研究の上で重要な役割を有している。ここでの調査では、1978年～1984年にかけてのCSCE・CDE交渉をめぐるイギリス外務省の公文書を中心に閲覧し、その内容を持参したデジタルカメラで撮影した。今次訪問で閲覧・撮影したイギリス所蔵の史料は、フランス所蔵の史料と比較すると体系的かつ情報量も多いため、CSCE・CDE交渉における西欧諸国の役割を把握する上で非常に有意義なものとなるものと思われる。

イギリス国立公文書館では、イギリス外務省の史料は原則として省内の部局ごとかつ年ごとに分かれて所蔵されており、かつオンライン上のシステムにて所蔵史料の目録を検索できるようになっている。そのため報告者は、渡航前にあらかじめ下調べをして目星をつけていた史料を現地で順に閲覧するというスタイルで研究を進めた。史料館にコンタクトすることなく自分自身で所蔵史料を探することができる点はイギリス国立公文書館の強みであ

る一方、フランス外交史料館とは異なりアーキヴィストから専門分野について細やかな助言を受けられるシステムとはなっていないため、一定程度の自助努力が求められる環境であるように思われた。



イギリス国立公文書館・外観



イギリス国立公文書館・閲覧室

#### ●総括

今回、フランス外交史料館およびイギリス国立公文書館での史料調査を通じて博士論文の執筆にあたり非常に有意義な史料を得ることができた。英仏両国の史料の強みを取り入れて、今後一層研究に励む所存である。